主な記事
２面　司教館の窓から、典礼奉仕のために
　　高松教区の兄弟姉妹たち、ひと
３面　平和行事、青少年
４面　医療のともしび、司祭異動
　　教区・司教スケジュール
　　書籍紹介

カトリック高松教区報

2009年9月6日（第131号）
発行所　カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

司祭年を記念して ①
愛と希望をあかしする司祭

高松教区司教総代理
デシデリオ　カンバラ

教皇様が六月十九日からの一年間を司祭年と定められた事は、皆さんもご存じのことと思います。それは、司祭の模範とされる聖ヨハネ・ビアンネの没後一五〇年を記念して、「キリストの忠実、司祭の忠実」というテーマを持っています。この一年、私には夢があります。それは、私をはじめ兄弟である司祭にとって刷新の年になること、そして教会における奉仕の在り方においても、ここ高松教区で司教様をはじめ、私たち司祭にとって精神的なあり方を新たにし、常に刷新しつづける事が出来るようになりたいということです。

具体的にまず、教会はすべての人のために開かれた、聖なる扉でありたい。悩み、苦しみを抱える人に寄り添い、あわれみと理解をもって誰でも受け入れる場所でありたいと思います。

そして、神からのことば、つまり福音を伝える場所でありたい。父であり母である神がおつくりになった、はてしなく長い歴史の、新しい契約である「愛の契約」を伝えつづける場所でありたい。

そして何よりも、永遠の命の糧が御聖体という、永遠の命の糧に養われている場所であるということ。この尽きる事のない永遠の泉、豊かな命を世界に告げ知らせる者でありたいと思います。

また、私たち司祭は教会というキリストの体そのものに奉仕するために召されているので、何よりも、教会の一致のために働きたいと思います。それは、私たち一人ひとり、あるいは共同体単位で、自分の思いを優先させることよりも、キリストの体である教会共同体として何が大切かを考えていくことだと思います。

それは、今この時代にあって時を識別し、若い人たち、社会の片隅に追いやられた人たち、つまり福音に耳をふさぎがちな、あるいは福音に出会う事が出来ない人たちに、それを届ける事が今の世の中では急務であると思います。

つまり、これらを一言で言うなら、教会はキリスト者のためにだけあるのではない事、救いを求めるすべての人にそのドアは開かれているということ、開かれたドアの先には、私たち司祭と共に、信徒である皆さんがいて、愛と希望のあかしを示すことが出来る教会でありたい。今の時代が餓える者を豊かに満たす場所でありたいと思います。

そして、その聖なる扉を開いているのは、誰でもない、主イエス・キリストご自身であること、そのことをあかししていきたいと願っています。

共にミサを捧げる
深堀司教と溝部司教

優しくたたずむ姿
私が出会った司祭

桜町教会　尾島純子

その神父様は、放蕩息子を迎える父親のように、こちらが気付く前から気付いておられ、身振りと笑顔で歓迎して下さいました。ミサの前には、聖堂の入り口で「よくいらっしゃいました～」と一人ひとりに声をかけて下さいました。また茶話会や黙想会の昼食時など寂しそうな人、困っている人に声をかけておられました。

話される内容は〝神の愛〟に徹しておられ聖堂に来られた人々と多く語らず、ご自分もイエスの前に座られました。一緒に外出する機会がありましたが、道で出会う人、ワンちゃんや、お花にもニッコリとし、声をかけておられました。

ある時、無縁仏の前を通り過ぎると、「待ってください。祈りましょう。煉獄にまだいらっしゃるかもしれないから・・」と言われ、共にめでたしを三回祈りました。

これは小さな思い出ですが、おみやげに頂いた、いろんな種類の入ったチョコレートを勧められた時、隣に座っていた私の耳元で「こういう時は自分の近くのを頂きます。」と言われ一つだけ召し上がりました。

神父様はいつでも共にいる人を天の国に近づかせようとしました。〝神の愛〟を言葉とその柔和な姿・微笑みで教えて下さいました。

十月十八日「教区民の集い」in香川
宣教大会へ意識づくり
新企画 演劇による分かち合いも

高松教区の一致と再生へ三年がかりで取り組む初の集いがいよいよ十月に迫りました。

一年目の今回は「教区の現状認識化」をテーマに、これまで教区民の皆さんが分かち合いによって得られた気づきをもとに喜びと活性に満ちた教区づくりを目指して共に集いましょう。

90人出席、初の結城了雪祭

阿南教会　渡辺康雄

七月五日、徳島地区の阿南教会で九十余名の参加のもと、結城了雪祭が行われた。

結城神父は平島庄（現在の阿南市那賀川町）に館を構えた足利家の流れをくむ阿波公方の末裔で、今年の一月二十五日には、結城神父が列福されたのを祝って建立された顕彰碑の除幕式が行われた。

このたび溝部司教はルイス・フロイスの日本史を引用し、ザビエルとザビエル来日当時の京都の室町幕府の状況について講演された。そして、ペトロ岐部祭が大分の信徒の信仰を強めた事について、エピソードを交えて優しく話され、結城了雪祭もそうなって欲しいと言われた。

最後に「ペトロ岐部と百八十七殉教者讃歌」を歌い閉祭した。

阿南教会

新しい時代へ決意新た
道後教会献堂五〇周年祝う

カトリック道後教会（担当司祭―サトルニノ・ゴンザレス神父）の献堂五十周年を祝う記念ミサが溝部脩司教を迎えて六月二十八日（日）行われた。ミサではグレゴリアン聖歌が歌われる中、愛媛県を中心に司祭、シスター、信徒ら二百五十人が出席して盛大に祝われた。信徒たちは節目の年を迎え、次の時代の教会共同体づくりへ決意を新たにした。

説教の中で溝部司教は「道後はキリシタン時代から見ると四百年以上の歴史がある。その重みを大切に、これまでの五十年が何だったのかをふり返り、これから何を中心にしてどう歩んでいくかを考えてほしい」と語りかけた。

祝賀会には約百五十人が出席。五十年を振り返るスライド上映、歴代主任・担当司祭のスピーチに拍手がわいた。またこの日のために韓国から駆けつけた五人の信徒が紹介されると一段と大きな拍手が起こった。アトラクションのコーラスも披露され、和やかなうちに会を終えた。

道後教会は司祭館が建てられた一九五七年二月にスタート。聖堂は翌年着工され一九五九年六月完成した。

列福調査も進む
小豆島教会で右近祭

今年で二回目となる右近祭が四国四県から八十名あまりを集め盛大に執り行われた。

今年は日本司教団列福委員会が高山右近の列福調査を本格化させ、障害となっている問題も、その調査によって来年二月には終わる見込みという。

小豆島の信徒にとっては明るい知らせである。この日一時半からの開会前には大粒の雨が落ちてきたが、式が終わるころには青空が祝福していた。式後は去年同様に信徒の皆さんによるソーメンパーティーとなり参加者の「おいしい！」の笑顔が輝いていた。

はばたき

大学に入ったはよいが、自分のやりたいことが見つからず、学業に対する意欲を失いかける・・・という学生も決してめずらしくない。ある日、そんな学生が相談に来た。

私「自分が本当にやりたいことを見つけるというのは、簡単なようで本当はとても難しいことだと僕も思うよ。でも、とりあえず、十年後・二十年後に自分がなっていたい姿を思い浮かべることができるかな。夢物語でいいから」学生「う～ん。なかなか思い浮かばないですね」

私「そうか。夢物語だから何でもありでいいんだぞ。僕には、いくつかあるよ。例えば、アイルランドに渡ってウィスキー作りの職人になってみたい。ウィスキーの語源は、『命の水』という意味らしい。また人里離れた修道院で、祈りと労働に打ち込む生活を送ってもみたいと思うこともある。こう見えてもクリスチャンなのでね」

学生「へえ～そうなんですか。でも先生の夢物語は、今のお仕事とは全く関係ないですね」私「その通り。よく見えているね。仕事について今の自分に限界を感じているから、現実逃避が入っているのかも知れないな」学生「私も職人の生き方には共感を覚えるときがあります。何か一本筋が通っているようで」私「なるほど。僕もそのような『一本筋の通った人生』を探し求めているのかも知れないな。いいことに気づかせてもらった。ありがとう」学生「いえいえ、そんな」・・・

これでは、どちらが相談に乗っているのかわからない。でもその学生の表情に少し明るさが戻ったように感じた。別れ際、一週間後にまた会う約束をした。

高松教区の兄弟姉妹たち ⑤

真理を観想し その実を伝えよ

聖ドミニコ宣教修道女会は、説教者兄弟会のロザリオ聖母管区の極東における宣教活動を助け、協力するために、１８８７年スペインに萌芽しました。

説教者兄弟会とは一般にドミニコ会ともいわれ、１２・１３世紀アルビ派の異端が蔓延していたヨーロッパに托鉢による貧しい生活をしながら説教によって真理を宣べ伝え、多くの異端者たちをカトリック教会に改宗させた聖ドミニコによって１２１６年に創立されました。

ドミニコ会の神父様のもとで揺籃期を過ごした私たちは、１９３３年ロザリオ聖母管区から独立し、「聖ドミニコ宣教修道女会」として教皇認可を受けました。その７５周年を昨年から今年にかけて祝っています。現在ローマに本部修道院をおき、スペイン、フィリピン、韓国、台湾、タイ、カンボジア、ミャンマーでも宣教しています。日本では、管区本部修道院が伊丹にあり、東京、愛知、京都に支部を持ち、四国では６０人ほどの会員が聖カタリナ学園（大学、短大、女子高校、幼稚園）をはじめ聖マルチ病院、マルチンの園（特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・老人介護センター）等、教育や福祉活動を通して、聖ドミニコの精神である「真理を観想し、その実を伝えよ」のもとに幅広く福音宣教に従事しています。

司教館の窓から

司教のひとりごと

日本にはお盆や、お彼岸があり、先祖供養を大事にする伝統がある。カトリック教会も死者のために祈るという事を大切にしている。その具体的な方法として命日、または記念日にミサを捧げる事を勧めている。その日、家族一緒にミサに与り、親しい人のために共に祈るという習慣を身につければ、家族の絆を先祖が結ばせてくれるというはずである。

先祖のために祈るという事で、具体的に以前掲載した家庭祭壇の事も思い起こしてはどうだろうか。

各家庭に小さな祭壇を設けて祈る習慣を持つようになれば嬉しい限りである。

いう事で一挙両得である。さらにミサ依頼の奉納金を捧げる事によって、教会の維持にも資

『典礼奉仕』のために

稲毛利之師

仕える典礼 ④

典礼（礼拝）って何？

まず典礼をどう行うべきかの前に、典礼って何かを考えてみましょう。

神は言われた。「あなた（モーセ）が民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。」出エジプト記３・12。

まず神に仕えること・典礼とは、まさに出エジプト（救い）の目的なのです。新約聖書ではどうでしょうか？ザカリヤの歌（ルカ1・68～79）は前半で救いの歴史を歌いますが、その頂点、すなわち救いの歴史のクライマックスは何かというと、「生涯をきよく正しく平和に送り、神に仕えることができるように。」―これまた典礼です。

そうです。私たちが救われたのは神に仕える（礼拝・典礼）ためです。しかし聡明な方はもう気付かれたと思いますが、典礼の核心は私たちにはありません。少なくとも私たちから始まりません。典礼の核心は神の言葉＝神の行為なのです。

まず神が身を屈めて私たちに奉仕してくださったのです。キリスト＝御言葉によって私たちを創造され、キリストによって私たちを救われたのです。典礼は神の行為によってはじまります。そして私たちはこの神の行為に応答するのです。この神の人間に対する奉仕とそれに応答する人間の神に対する奉仕の対話と交流こそ、礼拝であり、典礼なのです。

したがって、典礼は人間から自然発生したイベントではありません。神が働かれるから応答するのです。応答できるのです。神が働かれるから典礼を行うのです。行えるのです。

あなたはこの日、自分の子供に告げなければならない。『これは、わたしがエジプトから出たとき、主がわたしのために行われたことのゆえである』と。出エジプト記13・8。

ですから典礼において一番最初に重要なことは、神に「聴く」ことです。神である父の私たちに対する奉仕を正しく受け容れることです。

そのあと、はじめて応答できるのです。応答のためには神からのものを正しく受け取っていなければなりません。それこそ普遍的なものです。

そうした上で、それぞれの地域ごとの文化的、世代的な多様性に満ちた私たちの神への奉仕が可能となるのです。

典礼とは神である父から共同体に与えられる救いの体験の場、そして共同体としての、この救いの体験への応答なのです。だからもしその体験があやふやであれば、それを求めていくほかありません。

そしてほかならぬ典礼こそ、それを与え、確認し、強化し、励まし、思い起こさせるものなのであることは言うまでもありません。

ひと　徳島教会　山本真由美さん

山本さんは昨年の復活祭に受洗され、徳島教会の家族のひとりになられました。霊名はシエナのカタリナ。徳島にある大学で心理学を教えておられますが、楚々とした風情の、控え目でよく気のつく、もの静かな女性です。大学の心理相談室で室長をつとめ、自ら相談も受けておられますが、相談に来る人が増えることはあっても減ることはないそうです。生きにくい時代だから仕方がないで済ますことはできないと日々、真剣に人の心と向き合っておられます。私たち教会家族についても、信仰に支えられ、それぞれの人の心を大切にし、良い心を育てていって欲しいと言われます。教会では現在、宣教委員をされていますが、これから、神様の光に照らされて、共同体の中で何ができるかを考えていきたいと望んでおられます。私たちにとって願ってもない得難い方を神様がお送り下さったと大いに喜び期待しています。どうかよろしくお願いします。

文責　高田芙美（徳島教会）

高松教区３神学生紹介

松田栄作神学生（写真左）

三十二歳で受洗、五年後神学校入学、それ以前十二年間公務員として働く。今年本人を合わせて三神学生となることを喜んでいる。司祭年でもあり、信徒の祈りを心から願っている。

ヨゼフ・ゴーヴァン・ファン（写真右）

二年前ベトナムから来日、大阪日本語学院で二年間日本語を学んだ。現在長崎コレジオから長崎純心大学に通いながら、日本語二級を目指す。日本の生活にも何とか慣れ、司祭への道をたどる。

宗亨根（ソン・ヒョングン）

韓国光州出身二十八歳。今年八月高松教区神学生候補として来日、今治教会のペトロ神父のもとに身を寄せ日本語学習中。これからの教区民とのよき出会いによって司祭職の道への励みとしたい。

オレンシオ神父様をしのんで

道後教会　渡部千代

神父様は愛のある方でした。派手に表現されませんが、一人ひとりをよく解って下さっていました。私などそれなくては三十五年も道後聖母幼稚園で勤める事はできなかったと思います。神父様は私の良い面を引き出し、弱い面を見守って下さいました。職を引いたとき、その事を痛切に感じました。

神父様は子ども達が大好きで、子ども達もオレンシオ神父様が大好きでした。お元気な頃痛む膝もいとわず、サッカーや鬼ごっこをして五歳児にはかなわず逃げ回っていました。その姿はとても楽しそうでした。職を離れても子どもを見ているのが何よりも楽しみの様でした。神父様と歩いている時、降園時とぶつかり、一人の女の子が「さようなら」と追いこして行き又帰ってきて「おじいちゃん明日も来てね」と言って駆けて行きました。神父様とその子の笑顔は忘れられません。

お母様方もあの園長先生なら安心して預けられると言われていました。道後に住む方々はオレンシオ神父様が大好きです。タクシーの運転手さんの中にも「あの外人さんどうしてなさる」と尋ねて下さる方がいらっしゃいます。

神父様は病床におられる時「園長先生」と呼ばれるのを喜ばれました。神父様のちょっとした言葉、行動の中に優しさと、かなり厳しい教えが含まれていました。オレンシオ神父様の愛は神様からの愛です。私も神様から受けた愛を自分の周りの人々に少しでも分けてあげられる様になりたいと思います。

七月六日逝去
享年九十六歳

あっちこっちミサ

カトリック四国会館

六月二十一日午後三時から、若者が準備した同じ典礼で全国一斉に（十六箇所）あっちこっちミサが行われました。全国でのべ四百人以上（推計）の若者が参加したことになります。このために高松教区の青年たちは、テーマである「出会いは救い」のもと、約一年半かけて事務局としてよく働き準備し、そこで得たものや分かち合ったことを全国へ発信し続けてきました。そのおかげと聖霊の働きで、すばらしいミサとなったという知らせが全国各地から続々と届いています。この準備を通して高松教区の青年たちは霊的にも人間的にも大きく成長し、今も進行中です。あっちこっちミサを終え、今度は「出会いは救い」の輪とそのお恵みを広げていくために、また新たに出発しようとしています。

「元気を出そう中高生ミサ」

中島町教会

七月十九日（日）午前九時半からの中島町教会主日ミサの中で、サレジオ志願生中・高生がミサ曲・聖歌を元気よく歌い演奏しました。今回高知地区では中高生に力を入れることを決定し、そのさきがけとしてサレジオ志願生のみなさんを高知にお呼びすることになりました。高知地区の中高生も彼らを迎えるために集い、準備してきました。前日バーベキューを中心とした交流会も行われ、高知自慢のよさこい踊りも皆で踊りました。当日は松山地区からの中高生も加わり、中島町教会内は一杯の人々で、椅子に座れない人も出てくるほどでした。教区内の中・高生が、同世代であるサレジオの皆さんの力強い聖歌合唱に触れることにより、教会のことや自分の信仰を再考する大きな刺激となったことでしょう。

平和を祈るミサ

司教座　桜町教会

桜町教会　井川美佳

今年も八月九日（日）に溝部司教様司式のもと「平和を祈るミサ」が、司教座桜町カトリック教会で行われました。約一七〇名が参加し、平和への祈りを新たにしました。

溝部司教様の説教からは、祈りを通して一人ひとりができる活動の大切さと、私達が日々の生活の中で真の平和を選んでいく勇気を感じました。共同祈願では、タガログ語・スペイン語・英語・日本語で祈りを捧げ、各国の温かい言葉を通して全てに平和が訪れますようにと願いました。奉納では、平和旬間中、個人やグループで繋いだ【祈りのリレー】を捧げ、主の祈りには工夫もされてあり、一致の心で唱えることができました。最後には、聖歌隊の皆様による力強い歌声が響き渡り、主の平和へと、私達が平和への使徒・灯りとなれるよう導き広がって行きました。

全てを通して行き渡る平和ミサに感謝！

楽しかったファミリーキャンプ

小学二年　大原たくと

今日僕は、ゆうくんやしょうたろうくんたち五人とばあちゃんとゆう君のお母さんとしんぷさま、シスターやさくらまちきょうかいのひとたちとで、さぬきこどもの国へ行きました。

本当は、けんみんいこいの森キャンプ場へ行くよていだったけど、大雨で、そこは中止になりました。

はじめにしんぷさまのはなしがあり「今、あめがすごくふってますが、あめもいまはとてもだいじなので、かみさまがふらせてくれました」と、言ったので僕もそう思いました。

こどもの国へついたとき、ちょうどひこうきがしゅっぱつするところだったので、とぶところが見ることができてすごくうれしかったです。

そのあとおもちゃをつくったり、プロペラをまわしたり、がっきをつかったりしていっぱい遊びました。楽しかったです。バーベキューがおいしかったです。そのあと、いすとりゲームをしました。おにになるとうたをうたわせられるので、ひっしでいすをさがしました。えらかったです。

スイカわりもしました。ぼくはスイカわりがめっちゃたのしかったです。めかくしをしてぼうをもってあるくのが、すごくこわかったけど、みんなが「まえ、うしろ、みぎみぎ」と、いっぱい言うのでわからなくなりました。三回したけど、もっとしたかったです。

歌って踊って平和を語ろう

徳島

今回の「歌って踊って平和を語ろう」への参加は、私にとって実りある経験になりました。聖地で起きている紛争、憲法９条を守ることについての公演はとても印象深いものでした。戦争を体験してきた方々から見ると、現代の私達若者の悩みは贅沢だと思われるかもしれません。しかし、私達は日々目に見えない「心の戦争」をしているのかも知れません。誰しも自分が大事だし、傷つけられると仕返ししたくなります。そんな中、相手を気遣うことの素晴らしさを感じます。私は今まで色んな人に「素直な気持ち」を与えてもらってきた気がします。これからは、相手がほっと嬉しくなる様な気配りをしていきたいなと思います。紛争が続いている国の若者達を思い、自由な日本で精一杯生きなければいけないと感じました。

中島町教会　松下恵子

平和音楽会

坂出

「平和旬間」の一環として、八月十五日「平和音楽会」が開催された。コーラス、ソプラノの独唱、ピアノの連弾、「広島平和アッピール」と「マハトマ・ガンジーの祈り」の朗読を通して、出場者は坂出教会の素晴らしい響きの中で心から平和への思いを伝えた。忙しい時期にかかわらず、たくさんの方が出席され、涙ぐんでその感動を語った。最後に歌った「平和の鐘」の歌詞にあるように「ぼくらの生まれたこの地球（ほし）に、奇跡を起こしてみないか。拳（こぶし）をひろげてつなぎゆく、心はひとつになれるさ」。それは世界平和実現への第一歩ではないでしょうか。

若い力

FOOT STEPS

中島町教会　森本美鈴

私が信仰を持ち始めたのは何時だったか。

私は熱心な信者ではなく、幼児洗礼で、選択の余地を与えられなかったことを悔やみ、教えに長い間反抗していた時期もあった。でも、今私は確かな信仰を持ち、神さまと私を引き離す生き方は考えられない。ということは、私の信仰は生まれた時から、私を導いていたのかもしれない。

私の生き方で選択に迷ったとき、人間の考え方で物事を判断できれば、これくらい楽なことはない。でも、教えを受け入れるにつれて、自分の本当の意思が神さまの意思を無視できないと感じている。私は生まれてきてからずっと弱いものだと、神さまを通してよく理解するようになったことが恵みだと思う。

私が一番、心を惹かれたのは『許し』という、神さまの愛であり、それで私はどんなにか救われた。私たちは、神さまを見失っている時、他人以上に自分を許すことができない。しかし、神さまは許してくれる。心から赦しを求めるとき、神さまは私たちをその光で抱きしめてくれる。現実に戻ると、神さまの愛など取るに足らないと思う。それより、社会の評価が気になる。大好きな家族や友人や、愛する人も、そうでない人も、自分が追い求める夢も、楽しみも、必要のない苦しみも悲しみも全てを包み込んだ、この地球でしか生きられない。

しかし、神さまはいつでも私達のすぐそばに生きている。それによって、私たちも信仰をこの胸に証している。もし、私たち人間が神さまの愛を、隣人に実行するとしたらどうだろう。私たちは自らを許し、愛し、同じように隣人を愛すようになる。愛を感じれば更にそれを、隣人にと広げていくのではないだろうか。

容易な道ではない。苦しむことも悲しむこともあるけれど、暗闇の中でしか、輝く神さまの光を見つけることができない。この確かな信仰によって生きているうちにほんの僅かでも、この世界に愛の足跡を残していくことを私はきっと、諦めることはないだろう。

Charity for Your Neighbours

大学・短期大学・高等学校・幼稚園
学校法人
聖カタリナ学園
理事長　中田 婦美子
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地　TEL089-993-1300
http://www.catherine.ac.jp/guide/about_catherine.html

アルベルト・カルペンティール宗教画ギャラリー（聖カタリナ大学）

家庭祭壇　祈りと安らぎの空間
家族揃って祈れる場所がご家庭におありでしょうか？
8.5万円～各種取り揃えておりますので、お気軽にご相談ください。カタログを無料にて郵送致します
TEL 0972-63-4187
担当：ローザ平林美穂子
〒875-0041
大分県臼杵市畳屋町三組　山本鳳凰堂

聖マルチン病院
薬剤師・看護師（募集）　随時募集しています。
聖マルチン病院で専門職を発揮しませんか
下記にご連絡下さい。
（総務課）
0877-46-5195

医療のともしび（16）

四十九日－睡眠薬からの解放

小林恵美子さん（仮名）は今８１歳です。３年前にご主人が倒れてからのことを語ってもらいましょう・・・・「忘れもしませんが、３年前のお盆の日でした。主人（当時８３歳）が、朝、急に倒れて意識がなくなったのです。いくら呼んでも返事がないのでこれは大変と思い、急いで救急車を呼んで近くの脳外科のある病院に緊急入院しました。検査の結果は脳梗塞。幸い一命はとりとめたのですが、左半身に麻痺が残りリハビリの生活が始まりました。私は毎日病院に通い、食事を始め身の回りの細々した世話を続けました。夫は必死の努力の甲斐あって、寝たきりの状態から何とか杖を使って歩けるところまでいったのですが、翌年の２月に風邪をこじらせ肺炎になってしまったのです。せっかく歩けるようになったのに、また持続点滴をしなければならず寝たきりの状態に逆もどりです。時には私も病院に泊まらねばならなくなりました。呼吸が苦しいのか夜間も起こされるので、そのつど起きて夫の背中をさすったりしました。私の睡眠は細切れとなり、体がだるく睡眠薬をのまないとこちらが倒れてしまいそうになりました。だんだん薬の量が増えてゆき、やがて睡眠薬に安定剤さらには強力安定剤も追加されました。

夫は何とか肺炎が治って退院するところまでこぎつけたのですが、全身の筋力低下が著しく、夫婦二人暮らしでしたからとても自宅に戻ることはできませんでした。ケースワーカーの方に教えてもらって、寝たきりに近い状態のお年寄りが入る特別養護老人ホームに入所させて頂きました。夫は我がままで、あれが食べたいこれが食べたいと注文が多く、毎日何かは作って持って行きました。その間、私はずっと睡眠薬と安定剤を離すことはできませんでした。入所して一年半たった頃、夫は静かに息をひきとりました。葬儀がすんで気持ちが少し落ち着きましたが、睡眠に関しては寝るときの薬をのまないと眠れませんでした。夫の所持品をかたづけているうちに四十九日がきました。法要が終わり一人でお茶を飲んでいる時、ふと夫は納まるべきところに納まったという感じがしたのです。そうしたら気持ちがすーっと楽になり、急に眠くなったのです。今日は薬なしでも眠れるかもしれないという気がしたので、思い切って薬をのまずに寝たのです。そうしたら、何と朝までぐっすり眠れたのです。その日以来、私は薬なしで眠れるようになったのです。」

こんな不思議なことがあるのですね。普通は睡眠薬、特に安定剤も一緒に飲んでいる場合には急に薬を止めると反跳性不眠といって、反って不眠が悪化してしまうので決してやってはいけないことなのです。しかし、まれに小林さんが体験されたようなことが起こるのです。人間は不思議な存在です。

司祭異動及び教区辞令

A　新求道共同体「道」の旅人司祭に派遣された司祭
　1　アルバロ・チャベス師
　2　ハビエル・オリベラ師
　3　ホセ・ルイス・マリニ師
　4　谷口幸紀師
B　暫定的に帰国する司祭
　5　ラファエル・カストロ師（宇和島教会より）
　6　イグナシオ・スベロ師（八幡浜教会より）
　7　ロメオ・ベルナベ師（池田教会より）
C　他教区との契約司祭
　8　アントニオ・アンフーゾ師（神学院よりフィレンゼ教区へ）
　9　サンチャゴ・フロール師（グアム教区へ）
　10　アントニオ・ダンナ師（イタリア１教区）
　11　プラチド・キサリ師（イタリア１教区）
　12　アントニオ・オゾリオ師（大分教区よりイタリア１教区）
　13　ラウル・バルデス師（新潟教区へ）
　14　ルイス・フェルナンド・バラデス師（新潟教区へ）
　15　栃尾泰英師（新居浜教会より鹿児島教区へ）
D　教区内異動
　16　岩崎武師（西条、新居浜教会を2010年３月まで兼任）
　17　ホルヘ・ソーサ師（宇和島、八幡浜教会を2010年３月まで兼任）
E１　村上康助師：司祭評議員（栃尾泰英師後任）
　2　ウィリアム・ネルソン師：エクメニカル委員会委員長
　3　山下精三氏（江口教会・司教推薦）：宣教司牧評議員
　4　Ｓｒ．高松常子（被昇天聖母会）
　　「女性の視点から教会を考える委員会」委員長

「豊かな心を育むために」

幼稚園の教職員が松山にて研修

カトリック高松司教区幼稚園連合会（会長＝溝部脩司教）主催の教職員研修会が、七月二十四日、二十五日と松山市の国際ホテル松山にて、「豊かな心を育むために～急速に変わりつつある社会に対応できる教育を～」というテーマで開催された。研修会には、四国四県二十二幼稚園から約一四〇名の教職員が参加した。

第一日目は、ハビエル・レチョン実行委員長の開会宣言、村上康助副会長の開会挨拶の後、えひめ親子・人間関係研究所所長の平林茂代氏の講演が行われた。平林氏は「教育とコミュニケーション力」と題した講演の中で、信頼関係を築き育ちあうためのコミュニケーションの要素として、①自己概念（自分のことを知っている）②自己表現（自分の気持ちを表現する）③傾聴（他の人の気持ちを聴く）の三要素を上げ、それぞれを深めていくことによって、他の人も大切にしながら、自分らしく生きていくことができると指摘した。プログラム終了後の懇親会では、地元松山三津地区のこども虎舞の演舞が披露される中で、懇親を深めることができた。

二日目は、松山赤十字病院小児科部長の小谷信行氏の「医療現場からみた子どものこころ」と題した講演が行われた。小谷氏は、「オランダのこどもが世界一幸せな理由」というニューズウィーク誌の記事を紹介しながら、オランダの育児法の３R、①RUST（睡眠、休息）②REGELMAAT（規則性）③REINHEID（清潔）について説明した。３Rの静かに十分にゆっくり整えられた環境の中での育児法はこどもにとって大きな恵みとなっている。それに対して、現代の慌ただしく騒々しい、また大人もこどもも睡眠が十分とれないような多忙な環境の中で生育したこどもたちの中に様々なこころの病症が発していると指摘し、今後は育ちをサポートしていく成育医療の重要性が高まっているとも述べた。続いて、みことばの祭儀がおこなわれ、その中で溝部脩司教のミニ講話があり、仏教説話と聖書説話を題材に幼児教育の様々な場面で合掌をする習慣が必要だと説いた。最後に閉会宣言があり、二〇一一年度開催地の徳島県を代表して乾盛夫師から挨拶があり閉会した。なお、二〇一〇年度は日本カトリック幼稚園連盟教職員研修会（神戸）に合流のため、本研修会の開催は予定されていない。

（記＝桜町教会　多田洋）

主な司教日程

９月１日（火）司祭評議会 10:00
　５日（水）青少年司牧委員会（司教館）
　６～12日（木～土）青年ローマ巡礼
　13～18日（日～金）広島地区司祭黙想会指導
　24日（木）司祭集会
　26～27日（土～日）聖書講座（高知）
　28～29日（月～火）列聖委員会
10月４日（日）聖書講座（高知）
　９日（土）臨時司教総会
　11～12日（日～月）中高生の集い
　15～16日（木～金）大阪管区司教会議
　18日（日）教区民の集い
　20日（火）諸宗教懇話会
　22～26日（木～月）ＦＡＢＣ総会（ベトナム）

教区スケジュール

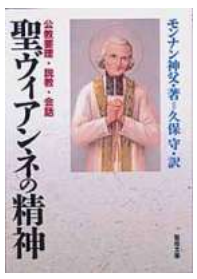
９月１日（火）司祭評議会 10:00
　６日（日）年間第23主日
　10日（木）日本205福者殉教者
　13日（日）年間第24主日
　14日（月）十字架賞賛
　16日（水）朝祷会 6:30
　18日（金）宣教司牧評議会役員会 13:00
　20日（日）年間第25主日
　21日（月）敬老の日
　22日（火）国民の休日
　23日（水）秋分の日
　27日（日）年間第26主日「世界難民移住移動者の日」
10月４日（日）年間第27主日
　６日（火）司祭評議会 10:00
　11日（日）年間第28主日
　12日（月）体育の日
　18日（日）年間第29主日「世界宣教の日」
　　「教区民の日」in香川
　20日（火）宗教者平和懇話会
　21日（水）朝祷会 6:30
　25日（日）年間第30主日

新刊書籍紹介

■「聖ヨハネ・マリア・ヴィアンネ　その生涯と祈り」

聖ヴィアンネ帰天150年を機に、2009年6月19日から1年間、特別年「司祭年」が祝われます。司祭の模範である聖ヴィアンネについて理解を深める事が出来る、分かり易い1冊。編者：いつくしみセンター、四六判並製120ページ、発行：いつくしみセンター、￥1260

■「聖ヴィアンネの精神」



フランス・アルスの主任司祭聖ヴィアンネが残した説教、会話、公教要理、の話を収録。伝記ではなく、警句集でもなく、奇跡の類でもない。この書物は聖ヴィアンネ自身の口から出た言葉である。著者：モンナン神父、訳者：久保 守、文庫版303ページ、発行：聖母の騎士、￥525

■「心だけは永遠
ヘルマン・ホイヴェルス神父の言葉」

その霊性と、深い日本理解によって生涯を日本での宣教に捧げたホイヴェルス神父の言葉の数々を、師の深い人柄やエピソードを交えながら解き明かしていく。土居健郎・森田明編著、新書版並製174ページ、￥693（本体￥660＋税）

■「デウス様何をお望みですか？
中浦ジュリアンの生涯」

2008年11月24日、長崎で列福された188人のひとり中浦ジュリアンの姿を追った歴史小説。天正遣欧使節の中でただ一人殉教し、「福者」となった彼の命をかけた証とは。
著者：やなぎやけいこ　新書版173ページ、発行：教友社、￥819

私たちは、
自分を創造しようとするこどもを
まなび、護りましょう。

暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　阿南聖母幼稚園

このコーナーで紹介された書籍をご所望の方は直接出版社に依頼されるか、桜町教会書院へお申込下さい。